



博多港・福岡空港の 概況

令和3年3月
福岡市港湾空港局

＝ 目 次 ＝

第 1 章 博多港の物流

- 1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース） …… P.1
 - （1）取扱個数の推移
 - （2）令和 2 年の取扱個数減少の主な要因
 - （3）貨物の内訳【参考：国内主要港との比較（令和元年）】
- 2. 国際コンテナ定期航路と寄港地 …… P.6
- 3. 海上出入貨物（トンベース） …… P.7
 - （1）海上出入貨物量の推移
 - （2）令和 2 年の貨物量減少の主な要因
 - （3）外国貿易
 - （4）内国貿易

第 2 章 博多港の人流

- 1. 船舶乗降人員 …… P.10
 - （1）船舶乗降人員数の推移
- 2. うち外国航路船舶乗降人員 …… P.11
 - （1）外国航路船舶乗降人員数の推移【参考：国内上位 5 港の推移】
- 3. クルーズ船の寄港回数 …… P.12
 - （1）クルーズ船の寄港回数の推移

第 3 章 博多港の入港船舶

- 1. 入港隻数及び総トン数 …… P. 14
 - （1）入港隻数及び総トン数の推移

第 4 章 福岡空港の概況

- 1. 乗降客数 …… P. 15
 - （1）乗降客数の推移【参考：国内主要空港との比較（令和元年）】
- 2. 貨物取扱量 …… P. 16
 - （1）貨物取扱量の推移【参考：国内主要空港との比較（令和元年）】
- 3. 発着回数 …… P. 17
 - （1）発着回数の推移【参考：国内主要空港との比較（令和元年）】
- 4. 路線状況 …… P. 18

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース）

【令和2年港湾統計速報値】

取扱個数：約89万3千TEU

外貿ダイレクト：約83万2千TEU、内貿フィーダー：約6万1千TEU

（1）取扱個数の推移

令和2年の国際海上コンテナ取扱個数は、新型コロナウイルスの影響等により、輸移出入ともに減少した。

【表 1-1】

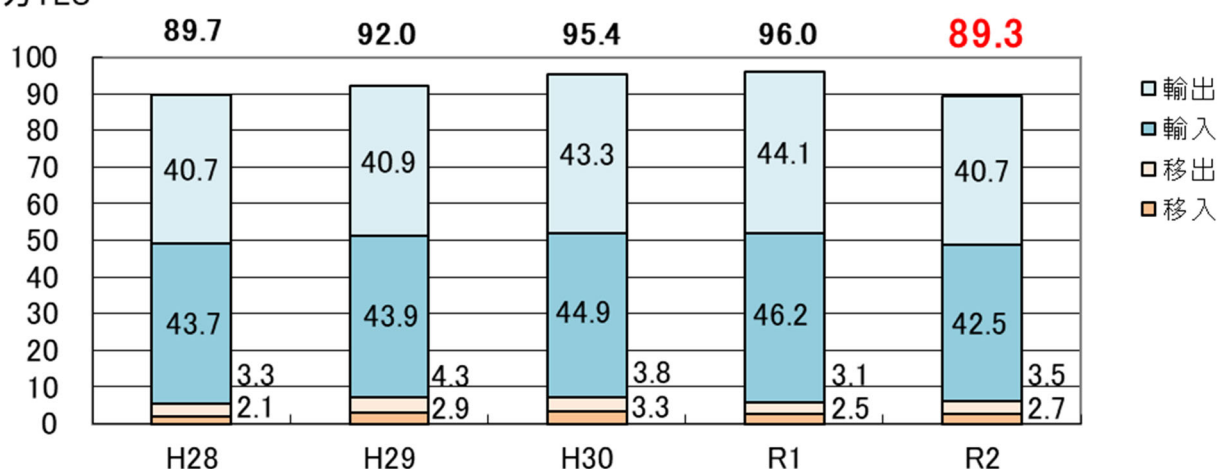
（単位：TEU）

区 分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減(R2/R1)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	897,124	920,149	953,548	960,085	893,289	▲ 66,796	93.0%
輸移出	439,258	451,920	471,276	472,708	441,499	▲ 31,209	93.4%
輸移入	457,866	468,229	482,272	487,377	451,790	▲ 35,588	92.7%
外貿ダイレクト	843,188	848,612	882,199	903,566	832,133	▲ 71,433	92.1%
輸出	406,526	409,217	432,810	441,367	406,913	▲ 34,454	92.2%
輸入	436,662	439,395	449,389	462,199	425,220	▲ 36,980	92.0%
内貿フィーダー	53,936	71,537	71,349	56,519	61,156	4,637	108.2%
移出	32,732	42,703	38,466	31,341	34,586	3,245	110.4%
移入	21,204	28,834	32,883	25,178	26,570	1,392	105.5%

※TEU…コンテナを数えるときの単位で、20フィートコンテナ換算個数のこと

【グラフ 1-1】

万TEU



（2）令和2年の取扱個数減少の主な要因

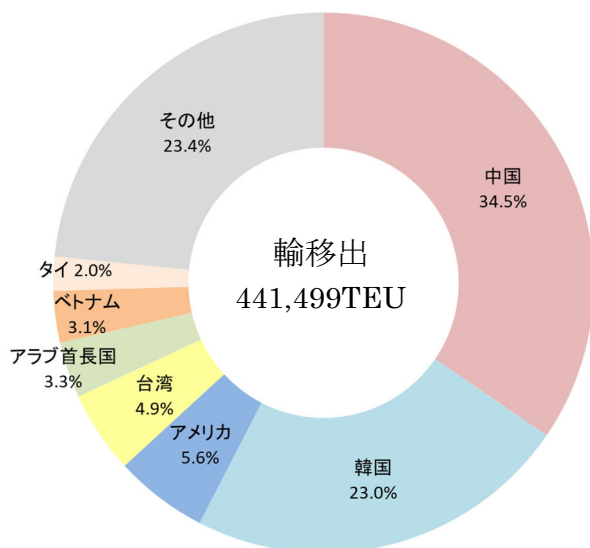
輸移出…ゴム製品（前年比▲1万8千TEU）や完成自動車（同▲5千TEU）の減少等
 輸移入…自動車部品（同▲7千TEU）や紙・パルプ（同▲3千TEU）の減少等

(3) 貨物の内訳

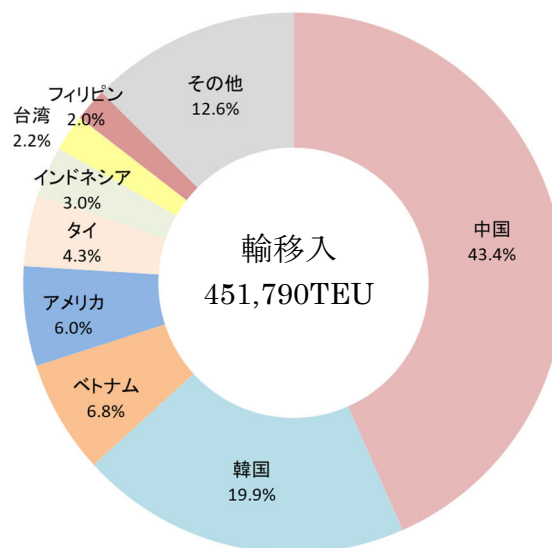
① 相手国別

輸移出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 1-2】



【グラフ 1-3】



② 主要取扱品種

輸移出では、主に北米や中近東向けを中心とする「ゴム製品（タイヤ等）」や「完成自動車（中古車）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位を占めている。

輸移入では、主にアジア諸国から入ってくる「家具装備品」や「衣服・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」などの生活物資が上位を占めている。

【表 1-2】

(単位:TEU)

輸 移 出					輸 移 入						
順位	品種	取扱個数	主な輸出相手国			順位	品種	取扱個数	主な輸入相手国		
1	ゴム製品	44,995	アメリカ	アラブ首長国	サウジアラビア	1	家具装備品	49,464	中国	ベトナム	マレーシア
2	完成自動車	※ 27,793	アラブ首長国	南アフリカ	タイ	2	衣服・身廻品・はきもの	41,616	中国	ベトナム	韓国
3	再利用資材	21,166	ベトナム	中国	台湾	3	電気機械	33,974	中国	タイ	中国(ホンコン)
4	産業機械	18,396	アメリカ	中国	韓国	4	動植物性製造飼肥料	29,697	アメリカ	韓国	中国
5	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	14,339	韓国	中国	台湾	5	製造食品	23,298	中国	韓国	アメリカ
6	自動車部品	14,255	アラブ首長国	韓国	マレーシア	6	自動車部品	21,522	韓国	ベトナム	中国
7	化学薬品	8,428	中国	アメリカ	韓国	7	その他日用品	16,844	中国	韓国	ベトナム
8	製造食品	5,506	中国(ホンコン)	台湾	オーストラリア	8	木製品	14,950	フィリピン	中国	インドネシア
9	輸送用容器	5,058	韓国	ベトナム	フィリピン	9	水産品	14,152	韓国	中国	ベトナム
10	水産品	4,360	ベトナム	フィリピン	タイ	10	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	13,253	中国	韓国	台湾

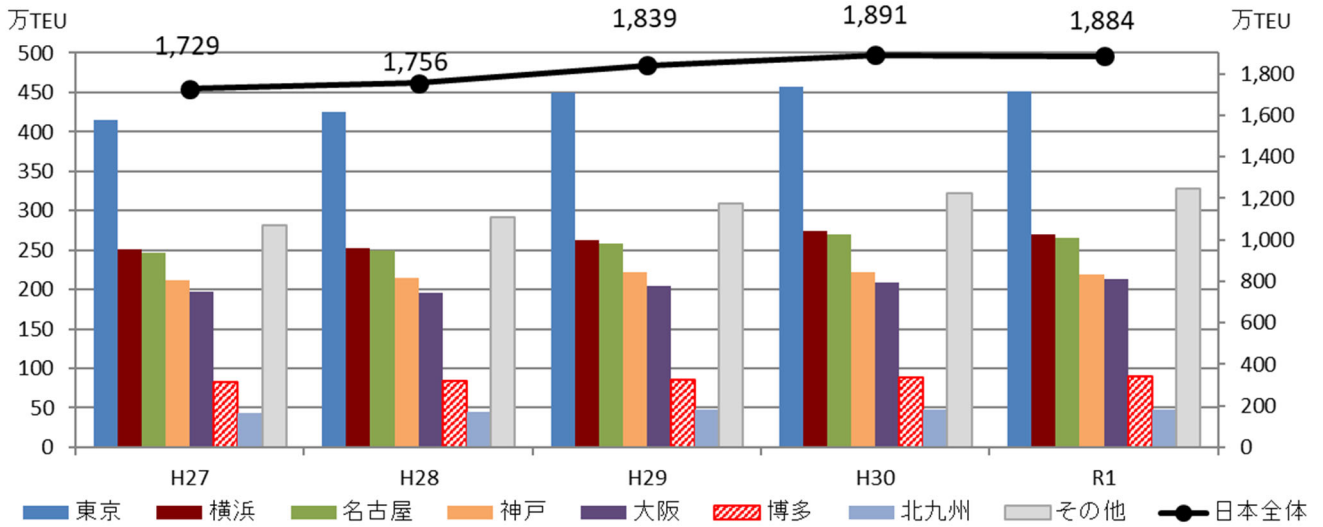
※普通・小型乗用車約56,000台に相当

【参考：国内主要港との比較（令和元年）】

① 外貿コンテナ取扱個数の推移と博多港のシェア

国内で輸出入される外貿コンテナの5%弱を博多港で取り扱っている。

【グラフ 1-4】



令和元年の港ごとの外貿コンテナ取扱個数は、多い順に、東京、横浜、名古屋、神戸、大阪、博多、北九州となっている。

年	H27	H28	H29	H30	R1
博多港のシェア	4.8%	4.8%	4.6%	4.7%	4.8%

※国土交通省「港湾統計(年報)」より

※令和2年は未発表

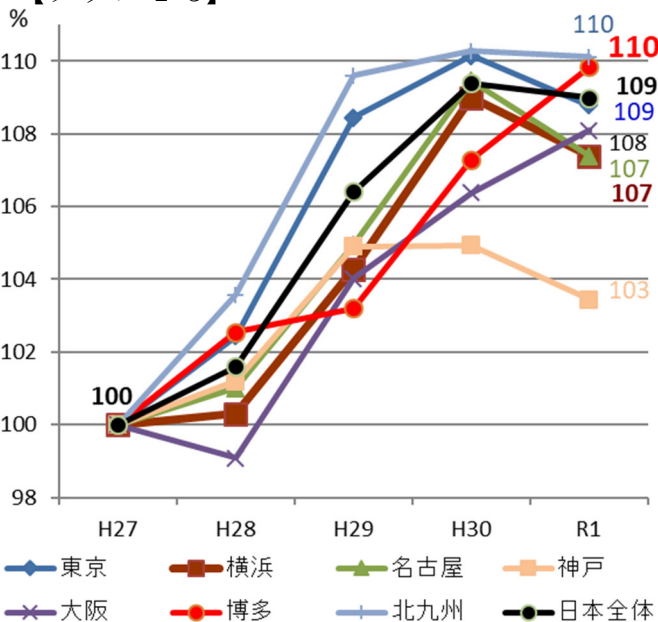
② 国内主要港の外貿コンテナ増加率

博多港の取扱は日本全体や国内主要港と比較しても堅調に推移し、令和元年は日本全体を上回る伸びを見せている。

③ 九州域内の取扱シェア（令和元年）

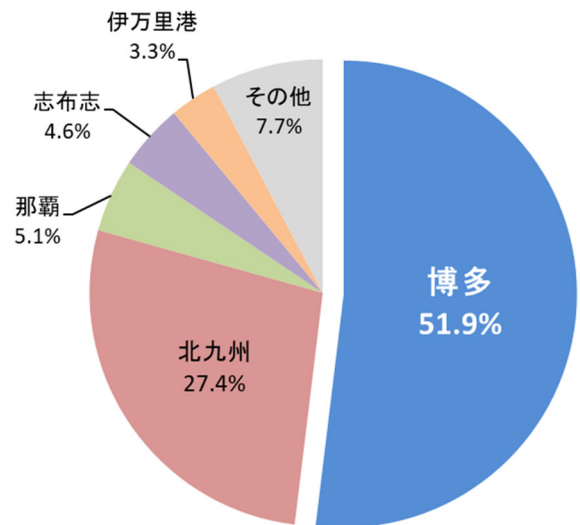
九州域内で取り扱われているコンテナ貨物の約5割が、博多港を利用している。

【グラフ 1-5】



※国土交通省「港湾統計(年報)」より

【グラフ 1-6】



※国土交通省「港湾統計(年報)」より

博多港のコンテナ物流と今後の取り組みについて

<全国・博多港の実入り貨物の長期的な動向>

全国(実入り・外貿)

(単位:TEU)

	2010年	2019年	増減	伸び率
輸出	5,895,085	5,833,974	▲ 61,111	▲1.0%
輸入	7,663,211	8,843,847	1,180,636	15.4%

全国的に輸入超過が拡大

博多港(実入り・外貿)

(単位:TEU)

	2010年	2019年	増減	伸び率
輸出	220,811	235,858	15,047	6.8%
輸入	320,532	422,919	102,387	31.9%

福岡市の人口増加率(8.8%)や、全国平均を上回り、著しく増加

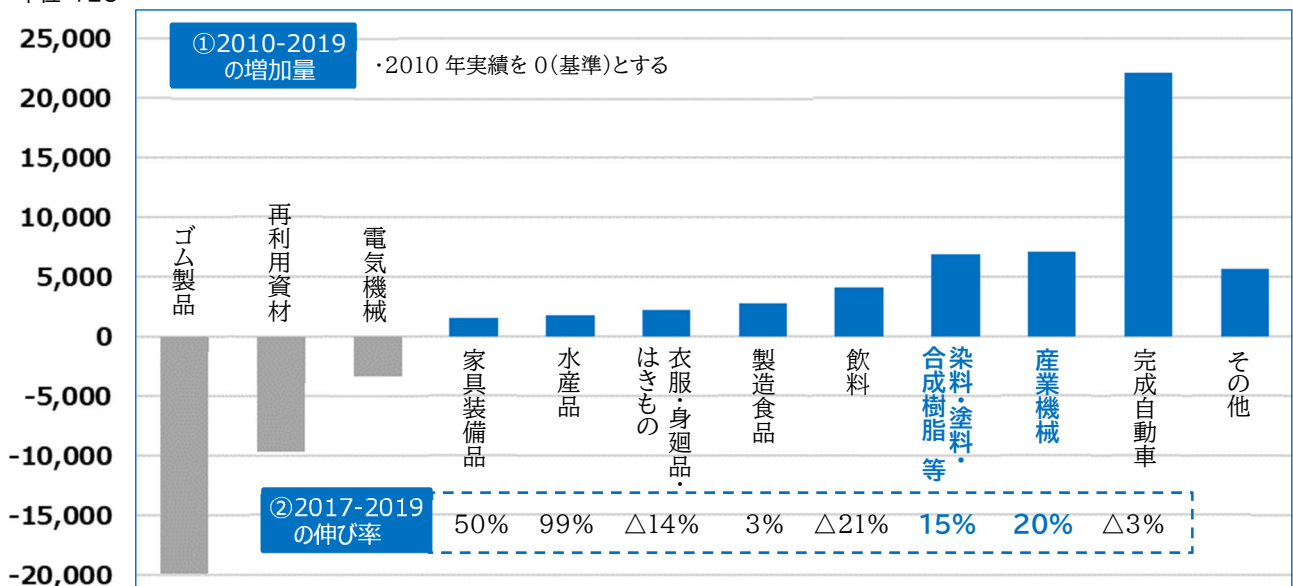
- 実入り貨物について、博多港においては特に**輸入が著しく増加**。
- 輸出に対し、輸入の伸びが著しいことから、**実入り貨物の「輸入超過」が拡大し**、結果として**「空コンテナの輸出」が増加傾向**にある。
- 今後成長が期待される貨物を中心に、**輸移出貨物集荷**に取り組む。

<博多港の輸移出貨物の中長期的な動向>

【分析の視点】

- ①長期(2010-2019)の増加量
- ②近年(2017-2019)の伸び率

単位:TEU



※2020年はコロナ禍の影響が大きいため、切り離して分析

○輸移出貨物については、既存荷主を含めた利便性向上を図るとともに、博多港独自の強みを活かし、中長期的な動向等から、下記を中心とした集荷活動を強化する。

- ・「染料・塗料・合成樹脂等」、「産業機械」など、**中長期的に増加傾向で、近年も増加が顕著な貨物**
- ・今後需要拡大が予想される、海外ネット通販で人気が高い日本の高品質な**食品や日用品**
- ・国を挙げて輸出強化の取組みが進められている、日本の安心・安全な**農林水産品**

※コロナ禍の状況、物流動向等を注視し、必要に応じて見直しを行う。

<博多港の2020年の貨物動向>

国際海上コンテナ取扱個数(実入り・空)

(単位:TEU)

	輸移出	増減	伸び率	輸移入	増減	伸び率	計	増減	伸び率
実入り	213,600	▲ 35,600	▲14.3%	420,749	▲ 19,163	▲4.4%	634,349	▲ 54,763	▲7.9%
空	227,899	4,392	2.0%	31,041	▲ 16,425	▲34.6%	258,940	▲ 12,033	▲4.4%
計	441,499	▲ 31,209	▲6.6%	451,790	▲ 35,588	▲7.3%	893,289	▲ 66,796	▲7.0%

輸移出貨物の主な増減品目

(単位:TEU)

	品目名	増減	伸び率
主な増加品目	染料・塗料・合成樹脂等	1,721	14%
	紙・パルプ	1,689	353%
	金属くず	737	39%

(単位:TEU)

	品目名	増減	伸び率
主な減少品目	ゴム製品	▲ 17,724	▲28%
	完成自動車	▲ 4,826	▲15%
	自動車部品	▲ 4,649	▲25%

コロナ禍の影響等により、従来のトレンドと異なる荷動きとなっており、今後も注視が必要。

輸移入貨物の主な増減品目

(単位:TEU)

	品目名	増減	伸び率
主な増加品目	家具装備品	3,037	7%
	その他製造工業品	2,655	80%
	電気機械	2,420	8%

(単位:TEU)

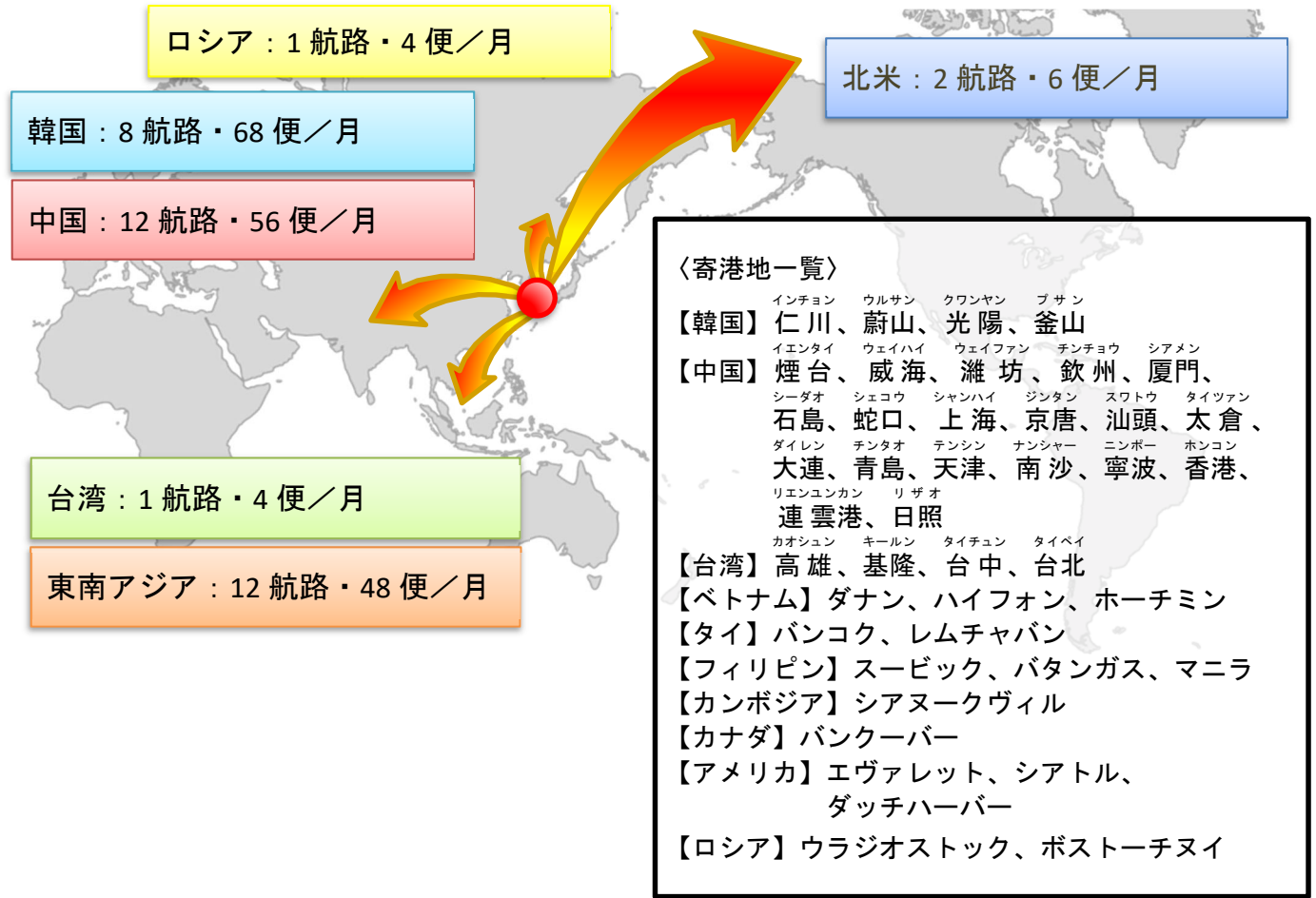
	品目名	増減	伸び率
主な減少品目	自動車部品	▲ 6,628	▲24%
	紙・パルプ	▲ 2,663	▲29%
	水産品	▲ 2,582	▲15%

- ・取扱貨物量の回復にあたっては、九州で生産・消費される貨物のうち、九州以外の港で輸出入されている貨物など、輸移入貨物も含め、戦略的な集荷活動を行う。

2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地

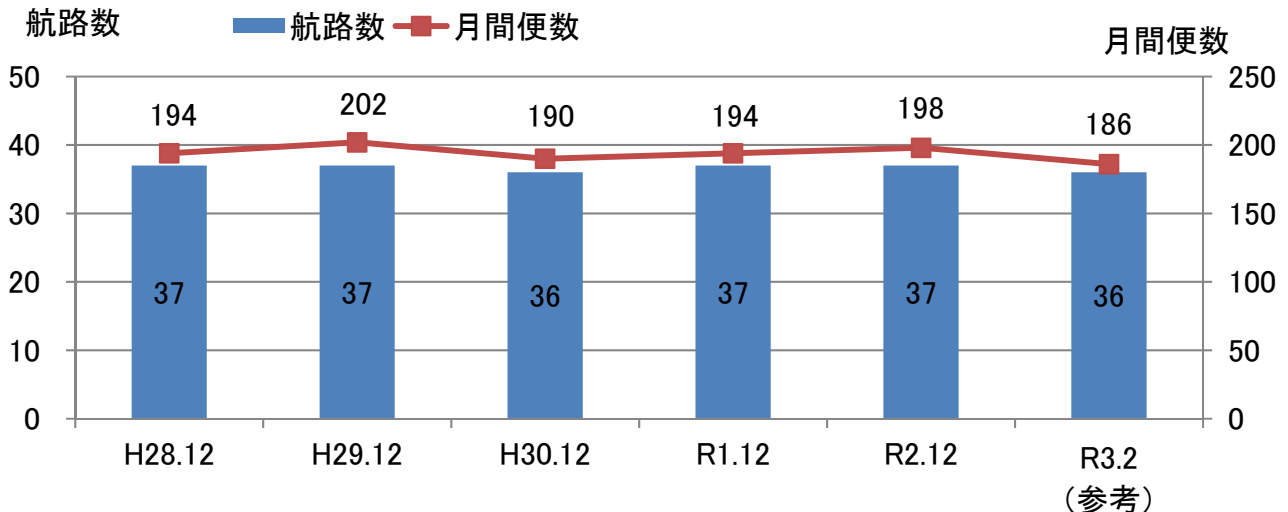
(令和3年2月1日現在)

36 航路・月間 186 便 (10 カ国・地域、42 港とのコンテナ物流網を形成)



■国際コンテナ定期航路の航路数・便数の推移

【グラフ 2】



3. 海上出入貨物（トンベース）

【令和2年港湾統計速報値】

約3,227万トン（前年比▲7.5%）

外国貿易：約1,859万トン、内国貿易：約1,368万トン

（1）海上出入貨物量の推移

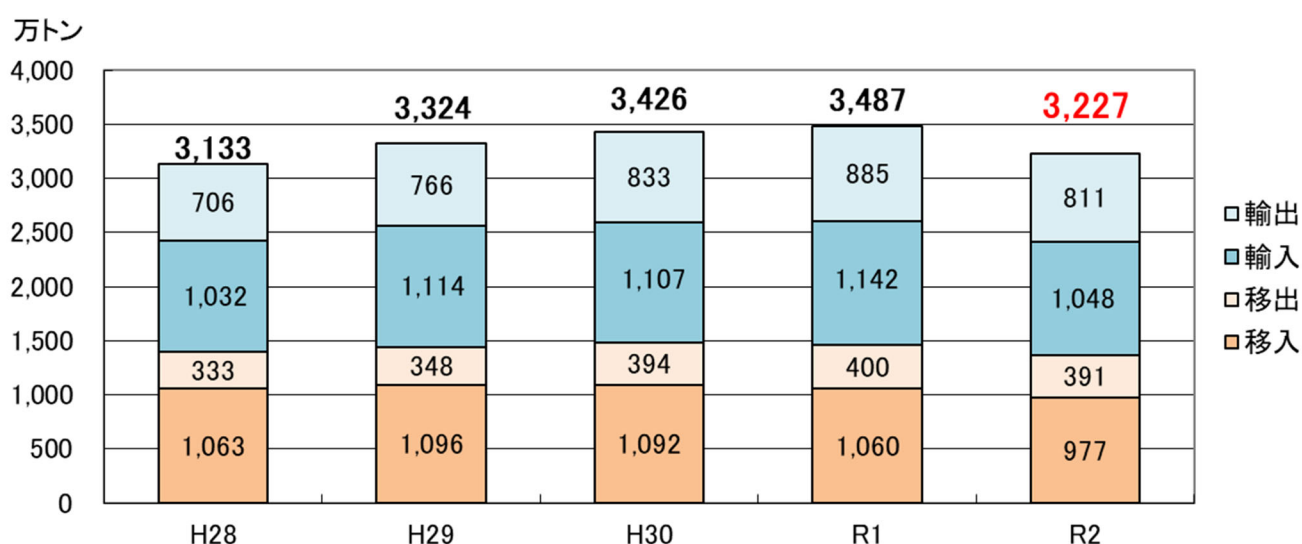
近年は3,000万トン台前半で推移しているが、令和2年は輸移出入ともに前年より減少している。

【表 3-1】

（単位：トン）

区 分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減(R2/R1)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	31,330,559	33,239,832	34,259,778	34,869,325	32,269,142	▲ 2,600,183	92.5%
輸移出	10,388,150	11,137,938	12,275,552	12,852,443	12,021,127	▲ 831,316	93.5%
輸移入	20,942,409	22,101,894	21,984,226	22,016,882	20,248,015	▲ 1,768,867	92.0%
うち外国貿易	17,378,961	18,795,222	19,400,872	20,275,931	18,586,484	▲ 1,689,447	91.7%
輸出	7,061,793	7,658,195	8,332,964	8,854,988	8,108,077	▲ 746,911	91.6%
輸入	10,317,168	11,137,027	11,067,908	11,420,943	10,478,407	▲ 942,536	91.7%
うち内国貿易	13,951,598	14,444,610	14,858,906	14,593,394	13,682,658	▲ 910,736	93.8%
移出	3,326,357	3,479,743	3,942,588	3,997,455	3,913,050	▲ 84,405	97.9%
移入	10,625,241	10,964,867	10,916,318	10,595,939	9,769,608	▲ 826,331	92.2%

【グラフ 3-1】



（2）令和2年の貨物量減少の主な要因

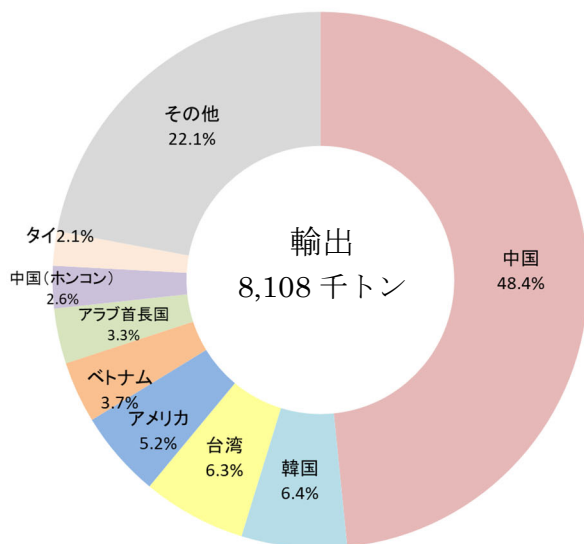
輸移出…ゴム製品（前年比▲46.2万トン）や産業機械（同▲9万トン）の減少等
 輸移入…その他石油（同▲34.1万トン）や揮発油（同▲15.3万トン）の減少等

(3) 外国貿易 【18,586千トン】

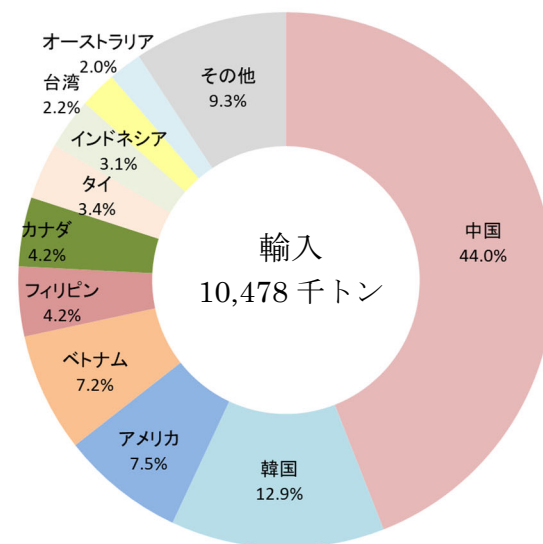
① 相手国別

輸出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 3-2】



【グラフ 3-3】



② 主要取扱品種

輸出では、中国をはじめとするアジアや北米、中近東向けを中心とする「完成自動車」や「ゴム製品（タイヤ等）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位を占めている。

輸入では、主にアジア諸国から入ってくる「家具装備品」や「衣類・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」などの生活物資が上位を占めている。

【表 3-2】

(単位:千トン)

輸 出				輸 入			
順位	品 種	取扱量	主な輸出相手国	順位	品 種	取扱量	主な輸入相手国
1	完成自動車	※ 4,295	中国 韓国 台湾	1	家具装備品	1,346	中国 ベトナム マレーシア
2	ゴム製品	911	アメリカ アラブ首長国 ロシア	2	衣服・身廻品・はきもの	904	中国 ベトナム 韓国
3	産業機械	416	中国 アメリカ ベトナム	3	電気機械	766	中国 タイ 中国(ホンコン)
4	再利用資材	410	ベトナム 台湾 中国	4	麦	641	カナダ アメリカ オーストラリア
5	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	258	中国 台湾 韓国	5	動植物性製造飼肥料	623	アメリカ 韓国 中国
6	自動車部品	226	アラブ首長国 マレーシア 韓国	6	野菜・果物	539	フィリピン 中国 韓国
7	金属くず	214	ベトナム マレーシア 韓国	7	製造食品	465	中国 アメリカ タイ
8	化学薬品	166	中国 韓国 アメリカ	8	その他日用品	393	中国 韓国 ベトナム
9	製造食品	103	中国(ホンコン) 中国 台湾	9	自動車部品	375	ベトナム 中国 インドネシア
10	輸送用容器	100	韓国 ベトナム フィリピン	10	木製品	343	フィリピン 中国 インドネシア

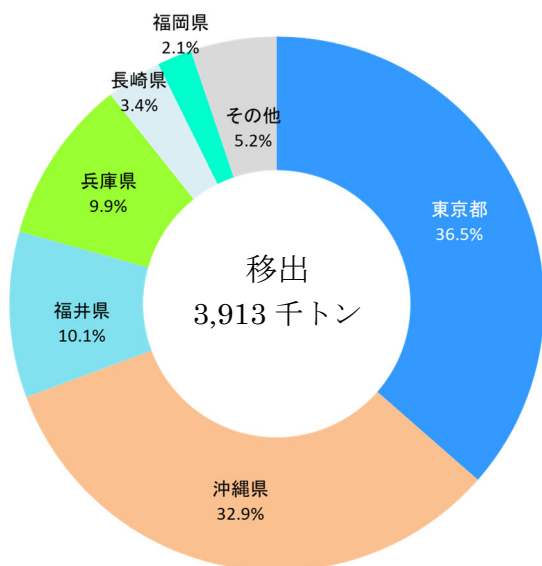
※普通・小型乗用車約430,000台分に相当

(4) 内国貿易 【13,683千トン】

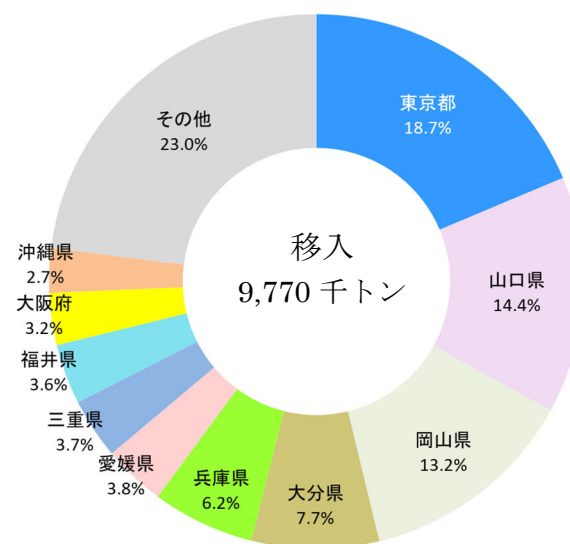
① 相手都道府県別

移出においては、定期航路を有する東京都や沖縄県との取引が多く、また、移入においては、東京都のほか、山口県、岡山県など石油製品を取扱う港との取引が多い状況となっている。

【グラフ 3-4】



【グラフ 3-5】



② 主要取扱品種

移出では、「取合せ品（小口混載貨物等）」や「完成自動車」など、取扱品種が多岐に渡っており、主に、定期航路を有する沖縄県や東京都に移出されている。

移入では、「揮発油（ガソリンなど）」や「その他の石油（軽油、航空燃料油など）」などの燃料系貨物、「砂利・砂」や「セメント」「鋼材」などの建築資材、「完成自動車」が上位を占めている。

【表 3-3】

(単位:千トン)

移 出				移 入					
順位	品 種	取扱量	主な移出相手都道府県	順位	品 種	取扱量	主な移入相手都道府県		
1	その他輸送機械	699	東京都 福井県 兵庫県	1	揮発油	1,647	岡山県	山口県	大分県
2	取合せ品	521	沖縄県 東京都 長崎県	2	その他の石油	1,563	岡山県	山口県	大分県
3	完成自動車	※1 481	東京都 沖縄県 兵庫県	3	砂利・砂	1,541	海上採取	長崎県	福岡県
4	製造食品	236	沖縄県 長崎県 兵庫県	4	完成自動車	※2 1,345	東京都	三重県	沖縄県
5	その他日用品	183	沖縄県 長崎県 兵庫県	5	セメント	521	山口県	福岡県	-
6	鋼材	177	沖縄県 兵庫県 長崎県	6	鋼材	416	大阪府	岡山県	兵庫県
7	自動車部品	137	福井県 兵庫県 東京都	7	取合せ品	316	東京都	沖縄県	兵庫県
8	麦	133	沖縄県 兵庫県 岡山県	8	重油	250	大分県	山口県	岡山県
9	ゴム製品	126	兵庫県 東京都 福井県	9	米	222	東京都	-	-
10	金属製品	126	東京都 沖縄県 福井県	10	その他農産品	216	東京都	兵庫県	福井県

※1 普通・小型乗用車約 48,000 台に相当

※2 普通・小型乗用車約 135,000 台に相当

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員

【令和2年港湾統計速報値】

約76万8千人 (前年比▲72.6%)

外国航路：約11万7千人、内国航路：約65万1千人

(1) 船舶乗降人員数の推移

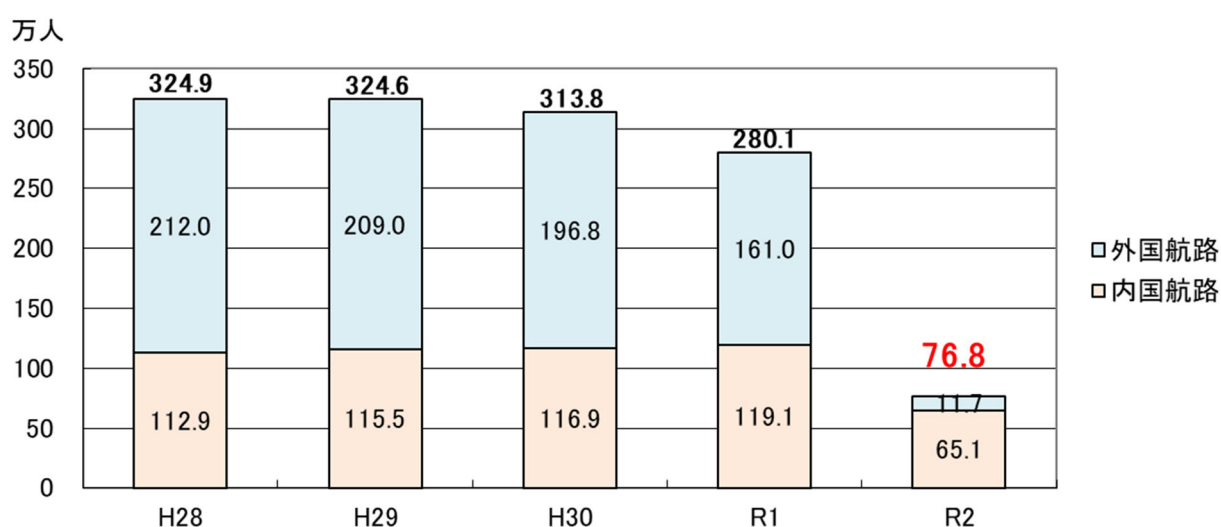
外国航路、内国航路とも、新型コロナウイルスの影響による人の移動の制限等により、前年より大幅に減少している。

【表1】

(単位：人)

区 分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減(R2/R1)	
					人数	人数	前年比
博多港全体	3,249,241	3,245,514	3,137,545	2,800,804	767,923	▲ 2,032,881	27.4%
外国航路	2,120,035	2,090,345	1,968,427	1,609,678	116,901	▲ 1,492,777	7.3%
内国航路	1,129,206	1,155,169	1,169,118	1,191,126	651,022	▲ 540,104	54.7%

【グラフ1】



2. うち外国航路船舶乗降人員

【令和2年港湾統計速報値】

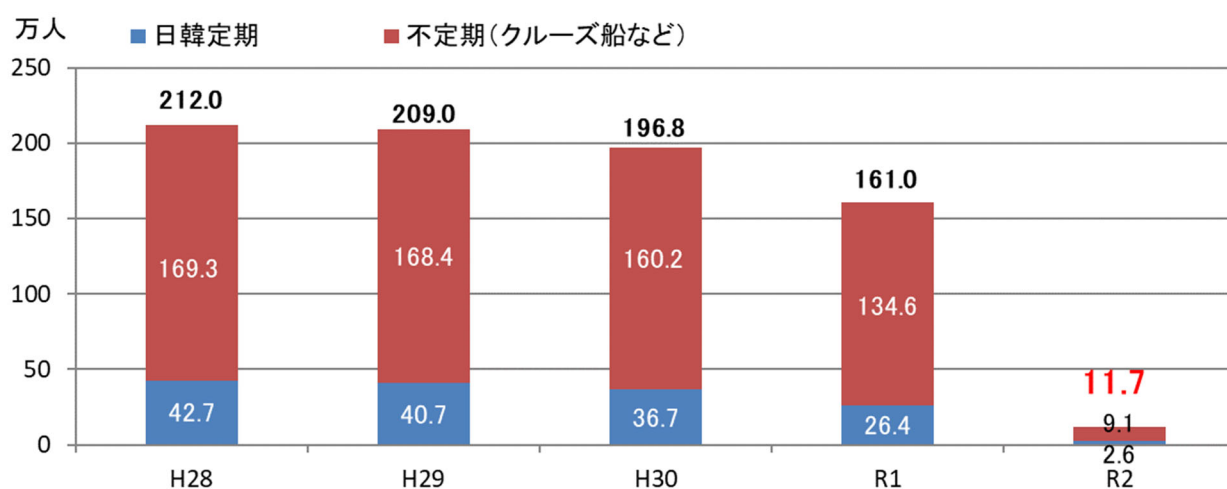
乗降人員数：約11万7千人

日韓定期航路：約2万6千人、不定期航路(クルーズ船など)：約9万1千人

(1) 外国航路船舶乗降人員数の推移

定期航路、不定期航路ともに、新型コロナウイルスの影響による人の移動の制限等によりそれぞれ乗降人員数が大幅に減少している。

【グラフ2】



【参考：国内上位5港の推移】

【表2】

(単位:人)

順位	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年	
	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数
1	博多港	1,607,290	博多港	2,120,035	博多港	2,090,345	博多港	1,968,427	博多港	1,609,678
2	長崎港	859,308	長崎港	1,044,154	長崎港	1,538,571	長崎港	1,394,392	那覇港	1,347,776
3	那覇港	406,095	那覇港	761,298	那覇港	969,481	那覇港	1,217,201	長崎港	1,091,761
4	比田勝港	281,576	比田勝港	362,026	八代港	573,962	比田勝港	632,842	石垣港	581,023
5	石垣港	220,158	鹿児島港	344,469	比田勝港	515,506	鹿児島港	533,180	平良港	522,529

※国土交通省「港湾統計(年報)」より

※令和2年は未公表

3. クルーズ船の寄港回数

【令和2年速報値】

寄港回数：14回

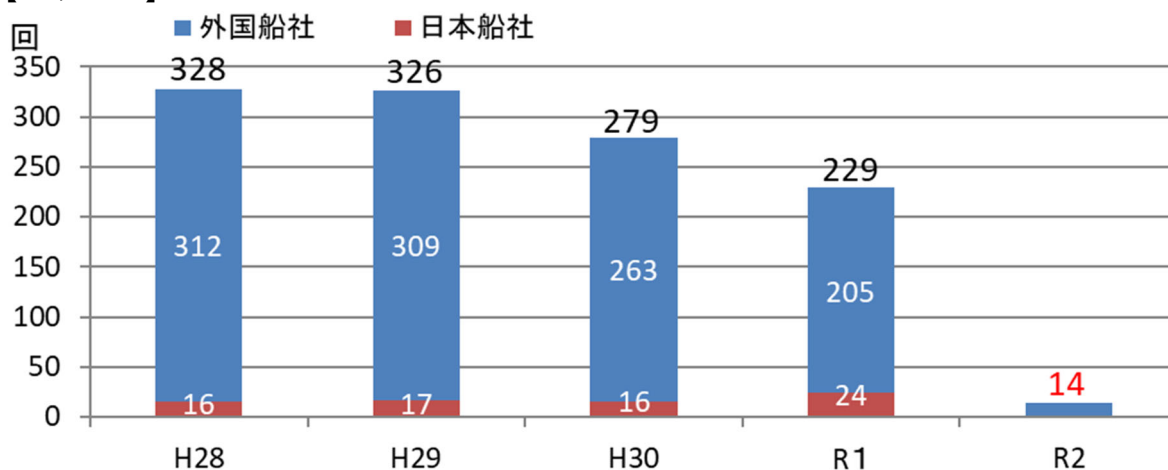
外国船社：14回、日本船社：0回

(1) クルーズ船の寄港回数の推移

平成29年3月より中国から韓国への団体旅行が事実上禁止され、中国発のクルーズ船は1回のツアーで日韓2か国を回ることができなくなり、商品の魅力が薄れたことや、中国クルーズ市場の急拡大後の調整局面が続き、中国への配船が減少したことに伴い、近年、寄港回数が減少傾向にあった。

令和2年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2月以降クルーズ船の寄港がなくなり、寄港回数が大幅に減少した。

【グラフ3】



【表3】我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数

順位	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数
1	博多	328 (312)	博多	326 (309)	博多	279 (263)	那覇★	260 (251)	ペラビスタ マリーナ 【広島県】	53 (0)
2	長崎	197 (190)	長崎	267 (262)	那覇★	243 (236)	博多	229 (205)	横浜★	47 (3)
3	那覇	193 (183)	那覇	224 (217)	長崎	220 (215)	横浜★	188 (87)	神戸	30 (2)
4	横浜	127 (40)	横浜	178 (57)	横浜★	168 (70)	長崎	183 (178)	那覇★	19 (17)
									宮島	19 (0)
5	神戸	104 (32)	石垣	132 (129)	平良★	143 (142)	石垣	148 (146)	—	—
6	石垣	95 (91)	平良★	130 (129)	神戸	136 (66)	平良★	147 (146)	笠島漁港	16 (0)
7	平良★	86 (84)	神戸	116 (43)	ペラビスタ マリーナ 【広島県】	122 (0)	神戸	131 (63)	博多	14 (14)
日本全国	2,017 (1,443)		2,764 (2,013)		2,930 (1,913)		2,866 (1,932)		353 (66)	

※国土交通省港湾局発表資料より

※()内は外国船社の寄港回数、★はクルーズ拠点港

市営渡船の経営状況

< 航路別収支 >

(単位：千円)

区分		令和3年度 当初予算(案)				
		志賀島	能古	玄界島	小呂島	合計
歳入	運賃収入等	77,757	257,756	52,838	22,786	411,137
	国・県補助金	0	0	109,426	56,480	165,906
	計	77,757	257,756	162,264	79,266	577,043
歳出	運航経費	361,506	375,522	238,028	150,373	1,125,429
運航収支		▲ 283,749	▲ 117,766	▲ 75,764	▲ 71,107	▲ 548,386
公債費(市債償還分)等		14,468	44,896	31,228	0	90,592
繰入金		▲ 298,217	▲ 162,662	▲ 106,992	▲ 71,107	▲ 638,978

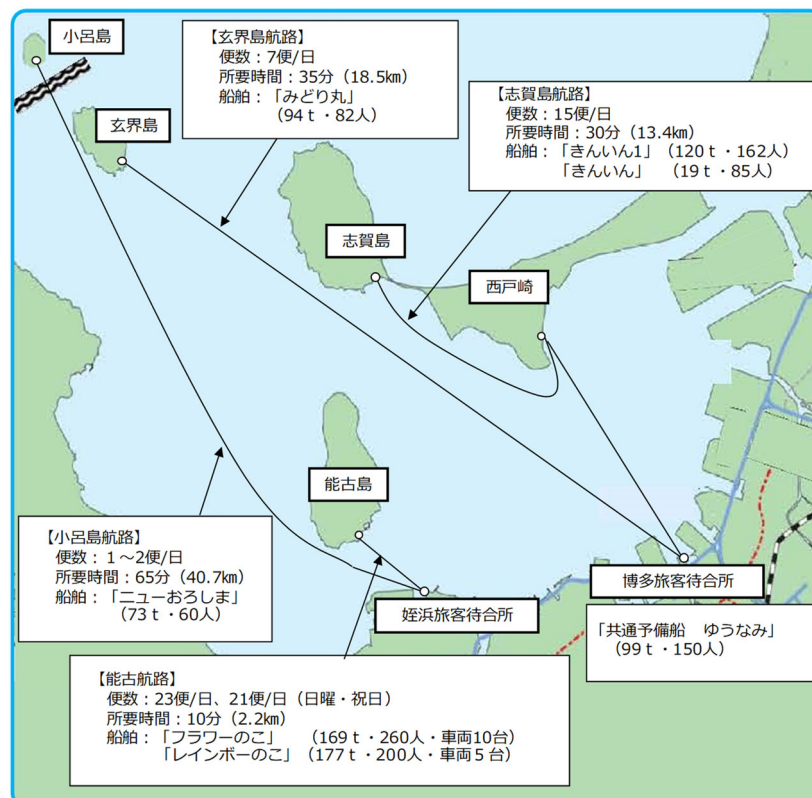
< 取り組み状況 >

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、まずは生活航路として、地元の方々に安心してご利用いただけるよう、感染症対策に継続して取り組むとともに、収束後は、各航路における観光利用の促進に努め、増収増客を目指す。

◆具体的な感染症対策の取り組み

- ・待合所、船内客室の換気及び座席、手すり等の消毒
- ・乗船時のマスクの着用、手指アルコール消毒の呼びかけ
- ・多客時の増便による船内の混雑解消 など

< 航路概要図 >



第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数

【令和2年港湾統計速報値】

入港隻数：25,477隻

総トン数：約5,596万総トン

外国航路：3,074隻・約3,581万総トン、内国航路：22,403隻・約2,015万総トン

(1) 入港隻数及び総トン数の推移

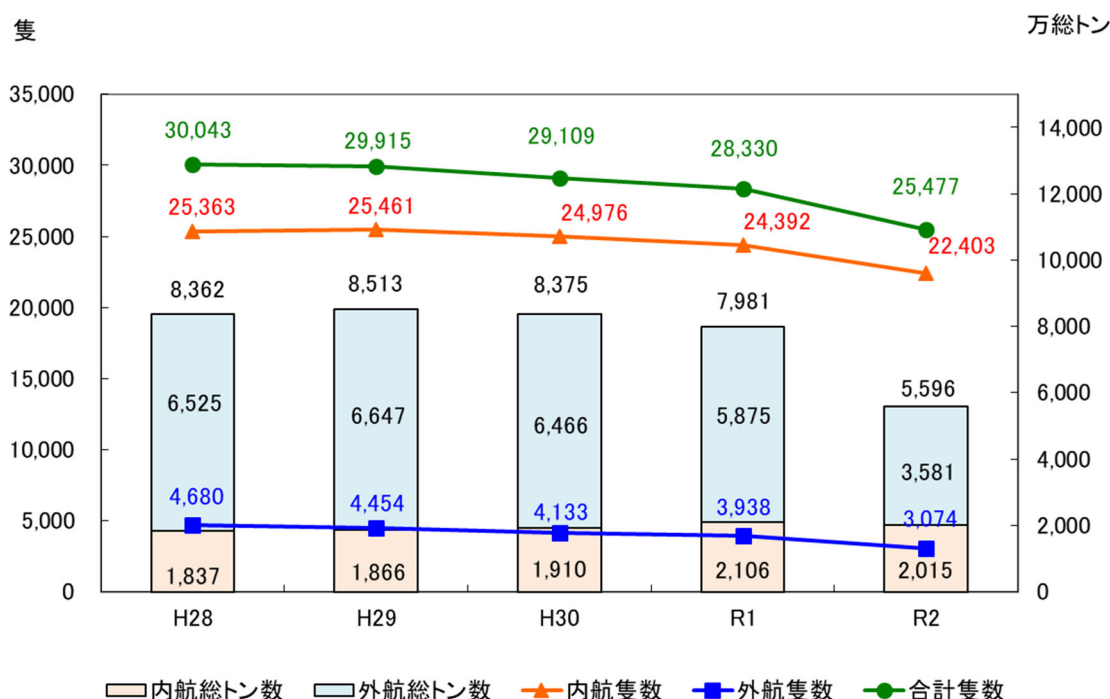
入港隻数、総トン数ともに、近年減少傾向にある。令和2年はクルーズ船の寄港回数的大幅な減少等により、入港隻数、総トン数ともに減少している。

【表1】

(単位: 隻、総トン)

区 分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減(R2/R1)	
					数量	数量	前年比
入港隻数	30,043	29,915	29,109	28,330	25,477	▲ 2,853	89.9%
外国航路	4,680	4,454	4,133	3,938	3,074	▲ 864	78.1%
内国航路	25,363	25,461	24,976	24,392	22,403	▲ 1,989	91.8%
総トン数	83,619,114	85,134,616	83,754,376	79,805,066	55,955,297	▲ 23,849,769	70.1%
外国航路	65,252,370	66,470,908	64,657,295	58,748,120	35,807,025	▲ 22,941,095	61.0%
内国航路	18,366,744	18,663,708	19,097,081	21,056,946	20,148,272	▲ 908,674	95.7%

【グラフ1】



第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数

【令和2年速報値】

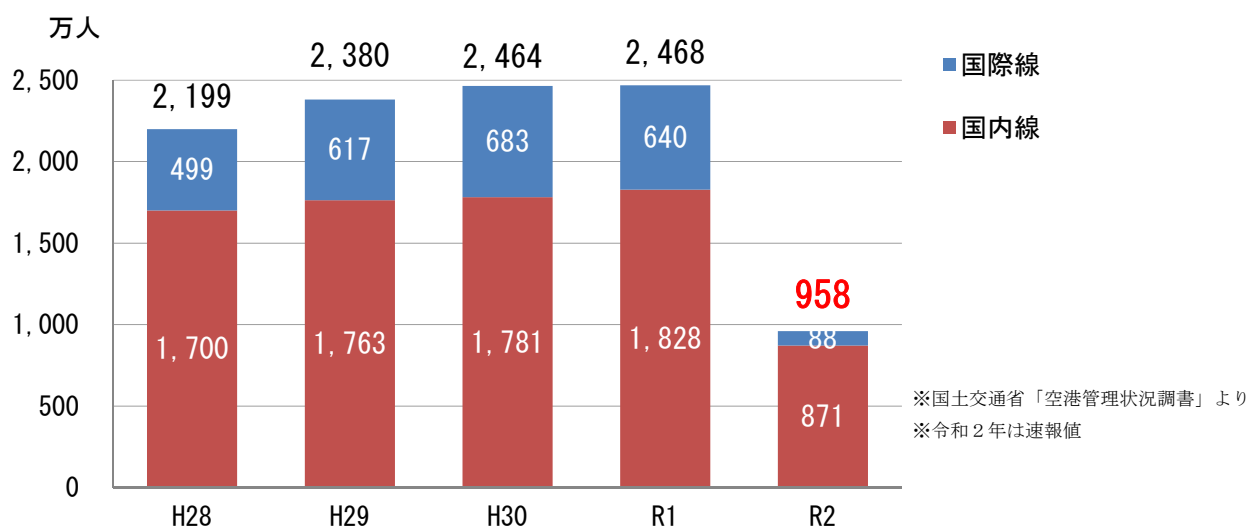
乗降客数：約 958 万人

国際線：約 88 万人 国内線：約 871 万人

(1) 乗降客数の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルスの影響により、大幅に減少している。

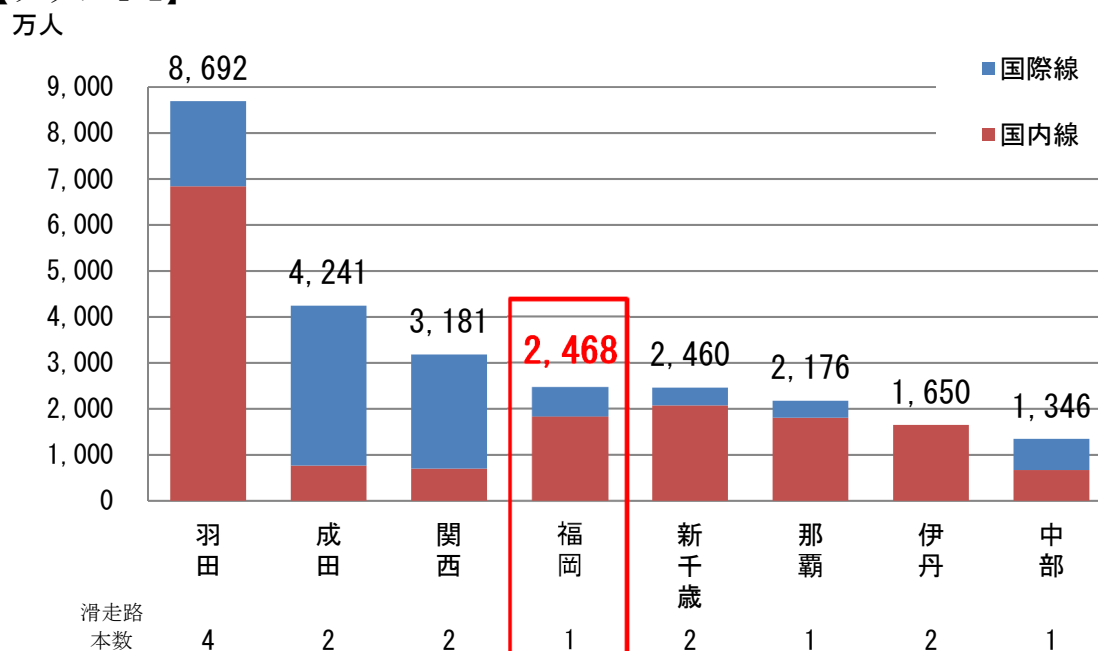
【グラフ 1-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和元年）】

福岡空港の乗降客数は国内第4位である。

【グラフ 1-2】



※国土交通省「空港管理状況調査」より

2. 貨物取扱量

【令和2年速報値】

貨物取扱量：約14万8千トン

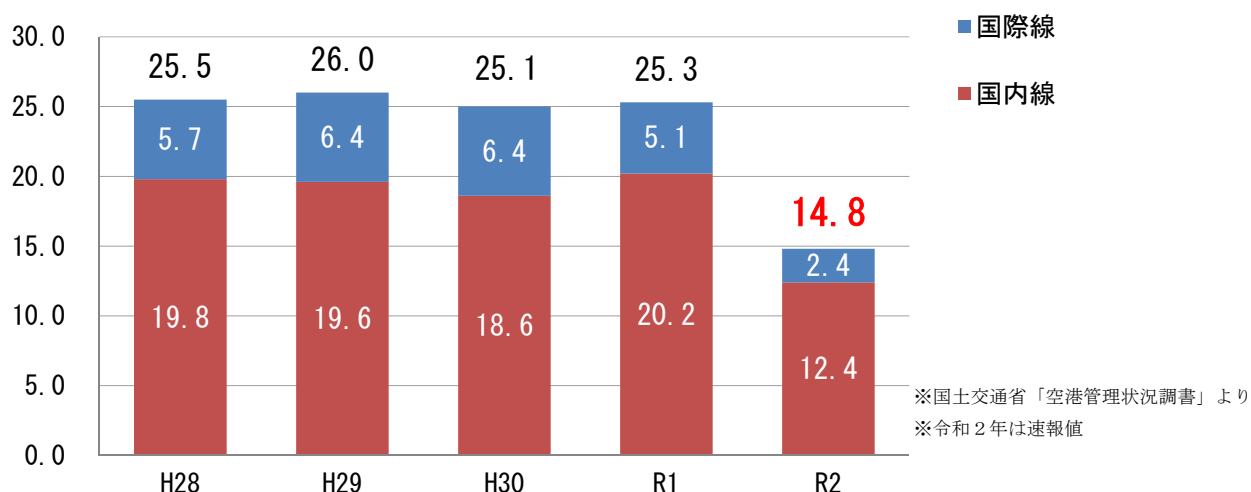
国際線：約2万4千トン 国内線：約12万4千トン

(1) 貨物取扱量の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルスの影響により、大幅に減少している。

【グラフ2-1】

万トン

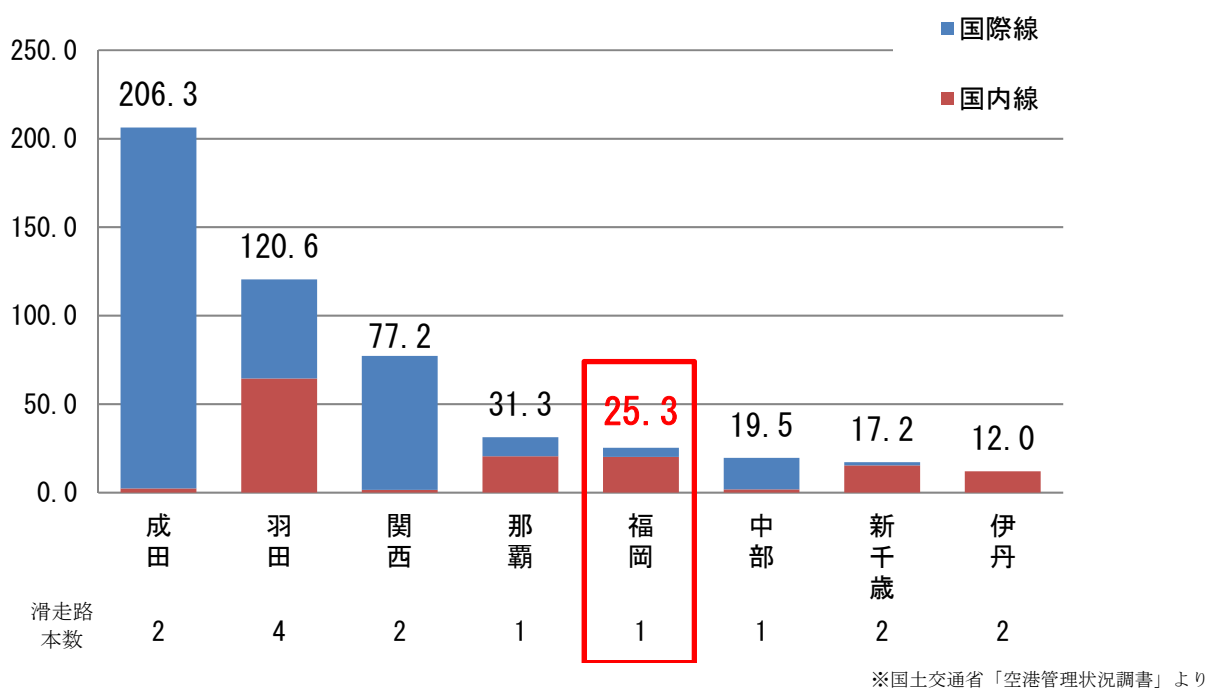


【参考：国内主要空港との比較（令和元年）】

福岡空港の貨物取扱量は国内第5位である。

【グラフ2-2】

万トン



3. 発着回数

【令和2年速報値】

発着回数：約11万2千回

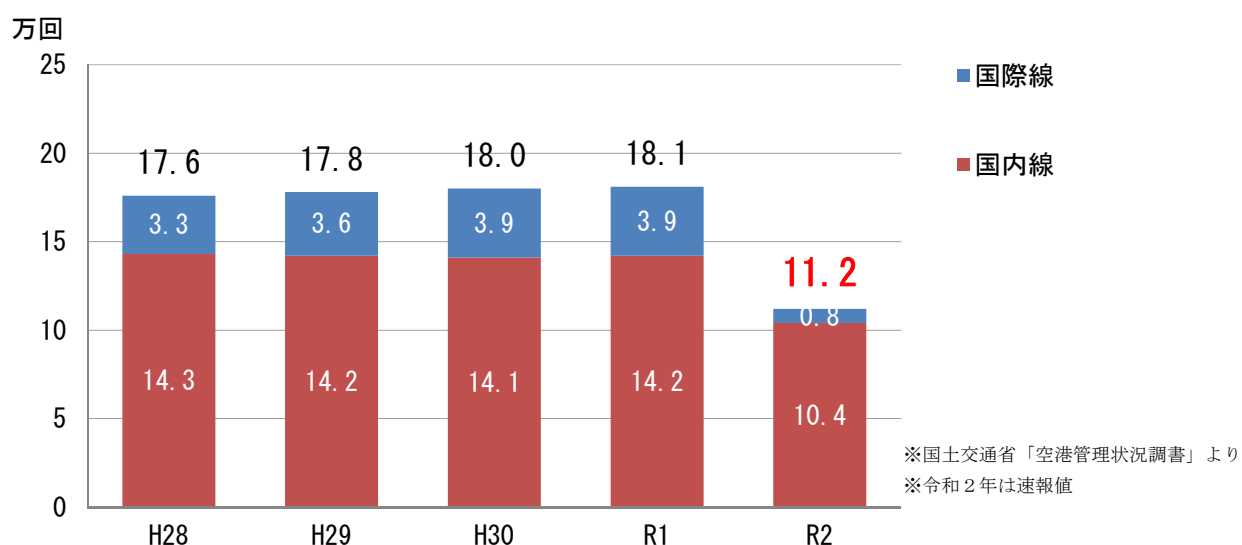
国際線：約8千回

国内線：約10万4千回

(1) 発着回数の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルスの影響により、大幅に減少している。

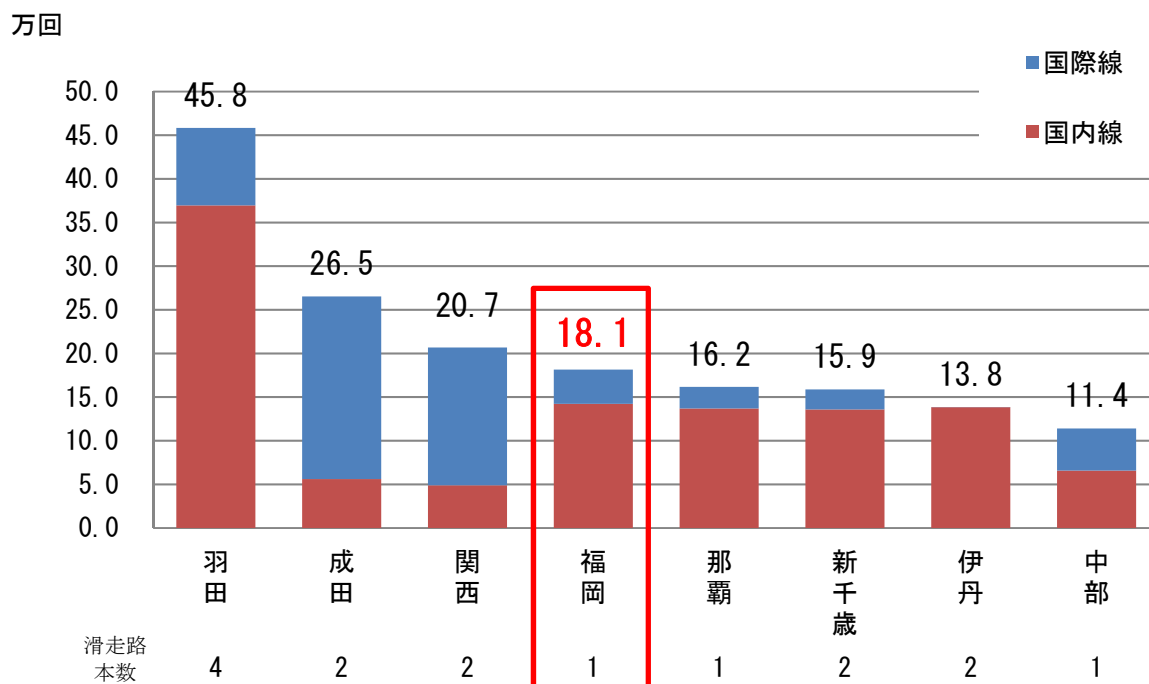
【グラフ3-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和元年）】

福岡空港の発着回数は国内第4位である。

【グラフ3-2】



※国土交通省「空港管理状況調査」より

4. 路線状況

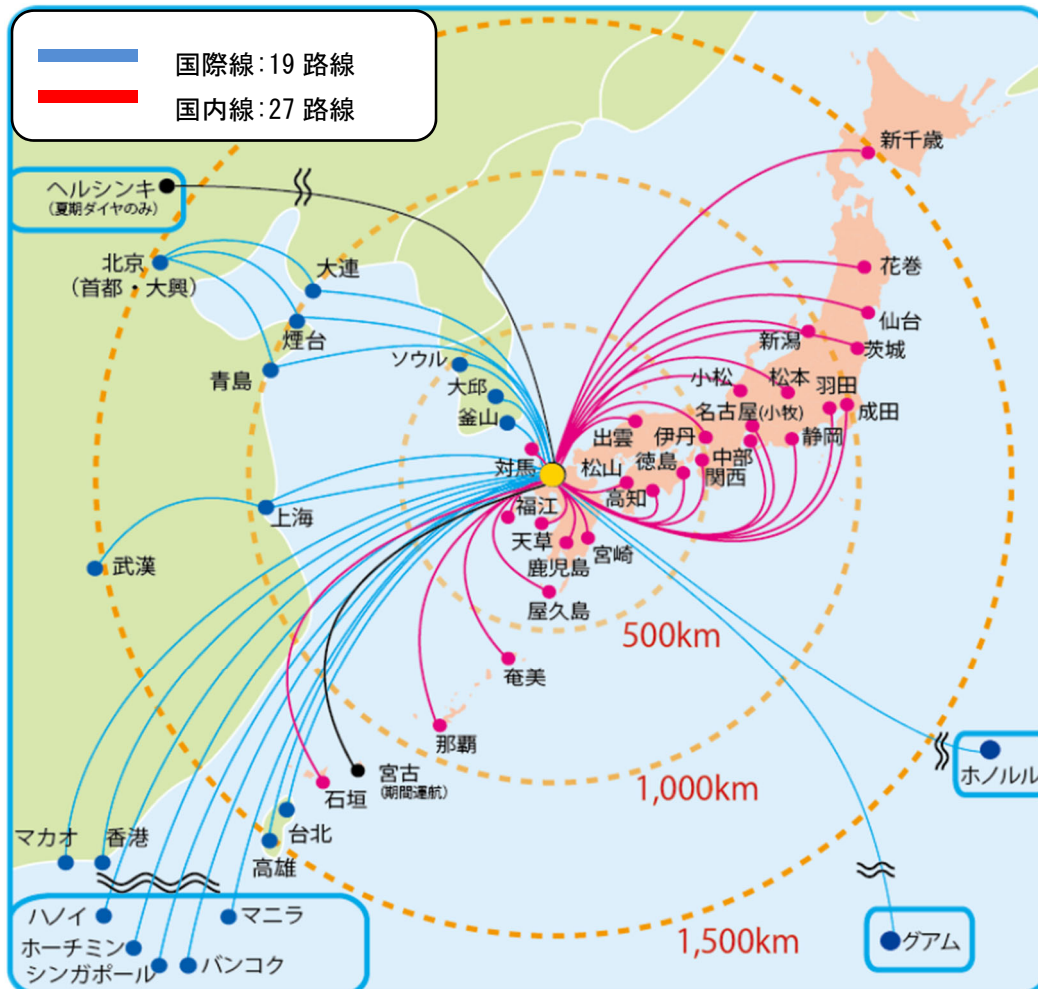
令和3年2月現在で、路線数は国際線が19路線、国内線が27路線となっている。
 また、発着便数は国際線が週674便、国内線が1日372便となっている。
 なお、新型コロナウイルスの影響により運休・減便が発生している。

福岡空港の時刻表(2月)を基に福岡市港湾空港局集計

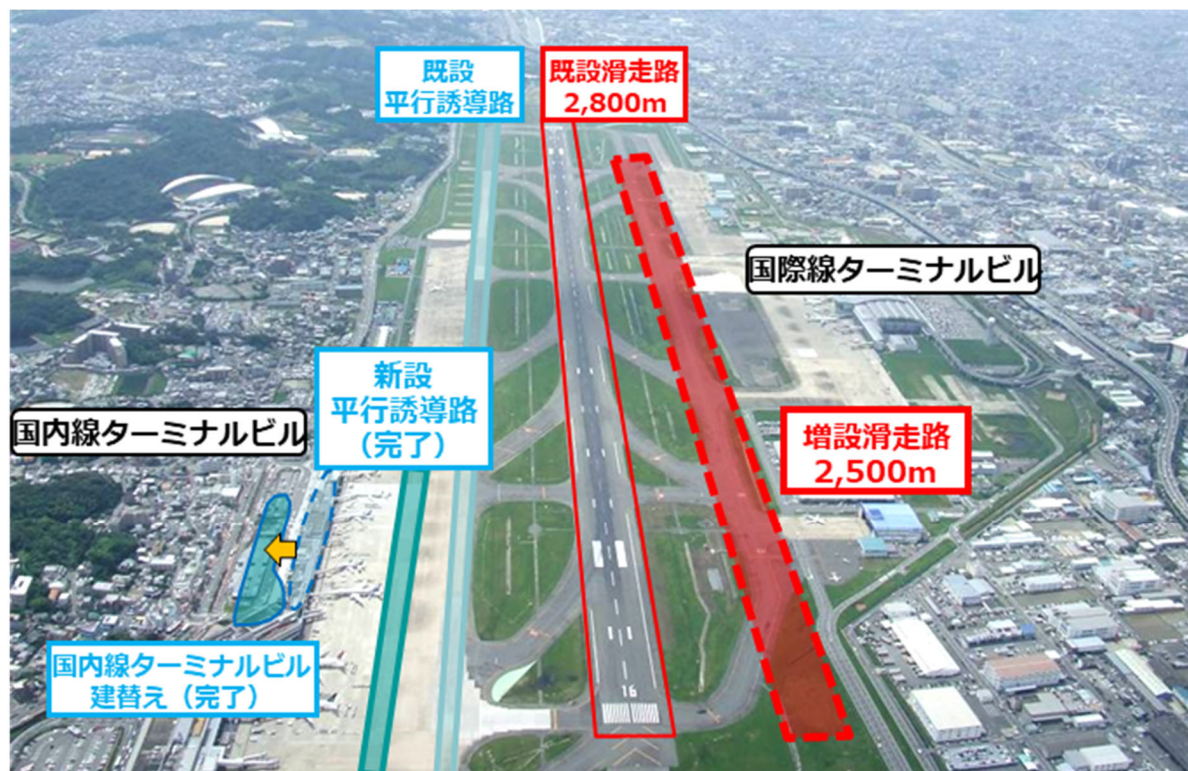
区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行先
国際線	19	674 (便/週)	24	ソウル、釜山、大邱、上海、武漢、北京、大連、 青島、煙台、台北、高雄、香港、 マカオ、マニラ、バンコク、ハノイ、 ホーチミン、シンガポール、グアム、ホノルル
	15	654 (便/週)	17	※下線部は時刻表上「運休」 計20都市(8カ国・地域)
国内線	27	372 (便/日)	12	羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、 小松、松本、茨城、静岡、中部、 名古屋(小牧)、関西、伊丹、出雲、松山、 徳島、高知、対馬、福江、天草、宮崎、 鹿児島、屋久島、奄美、那覇、石垣 計27空港

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く

福岡空港路線図(令和3年2月現在)



福岡空港の機能強化



滑走路増設事業

慢性的に発生しているピーク時の航空機混雑の抜本的解消や将来の航空需要に適切に対応するため滑走路増設事業を実施(令和 7 年 3 月末供用開始予定)

■ 平行誘導路二重化

空港の利便性向上や航空機の慢性的な遅延の緩和等を目的として、平行誘導路の二重化を実施(令和 2 年 1 月 30 日完了)

福岡市・福岡国際空港(株)協議会の開催実績（令和2年10月以降）

福岡市は、運営会社との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場(福岡市・福岡国際空港(株)協議会)を設置

開催日・出席者	主な協議内容
令和3年2月2日（協議会） 【福岡市】 市長、副市長、 港湾空港局長、理事 他 【運営会社】 社長、副社長 経営企画本部長 他	<ul style="list-style-type: none"> ・市から、今年度を実施した幹事会の概要を報告。 ・運営会社から、2020年度中間決算について、新型コロナウイルスの影響により、当期純利益 117 億円の赤字ではあるが、安全確保に対する投資や地域共生事業はしっかり行っていくとの説明。 ・市から、厳しい状況が見込まれるが、今後とも、安全・安心で、地域に寄り添った空港運営の継続について、来年度事業計画への反映を含め、改めて要請。 ・運営会社から、これまでいただいた様々な意見を来年度の事業計画や今後の空港運営に反映させていく旨の発言があった。 ・緊急事態宣言下で水際対策が強化されているが、福岡市から、空港における新型コロナウイルスの感染防止対策の取組みの徹底と、国と連携した水際対策の強化について依頼。

